

事業

4人がかりで解体される重さ446kgの巨大クロマグロ—那智勝浦町



巨大マグロ 肉質は「A5」級

那智勝浦町の勝浦漁港に5日に水揚げされた重さ446kgのクロマグロが7日、落札した地元ヤマサ脇口水産で解体された。昭和24年の県漁連勝浦市場開設以来、最大のマグロは、和牛でいうと最高ランクの「A5」級で、274万円の価格通りの「肉質」だった。

落札業者が解体 那智勝浦

大き過ぎてマグロ専用の木箱に入らず、保冷トラックで氷詰めになされていた巨大マグロは、フォークリフトに載せられて同社の工場内に運ばれた。

頭をのこぎりで落とし、4分割にされたが、その一部をテーブルに載せるのも6人がかり。良質のマグロはドリップ（血液）があまりでないが、ビニールシートをほとんど汚すことなく、ブロックにされていた。肉質は、「東京・銀座で食べたら、大トロ1貫3千円クラスの好物」（市場関係者）という。

脇口光太郎社長（49）は「築地や大阪に出さなかったのは、まず地元の人に食べてもらいたかったから。味を知って勝浦のマグロに誇りを持っていたきたい」と話した。

ダム放流水を活用した水力発電所など、再生可能なエネルギーを積極的に取り入れたまちづくりを推進する有田川町は、廃校になった小学校校舎の屋根にソーラーパネルを設置して、町営の太陽光発電所事業を開始した。町環境衛生課は「エコに環境を（愛し）」「エコにま

罪に問われた中村桜洲被告 人尋問が行われた。

親（69）に向けて深々と頭を「学生の頃は明るく人懐っこ